

教育研究業績書

2025年10月20日

所属：英語グローバル学科

資格：准教授

氏名：ウィックストラム

研究分野	研究内容のキーワード
社会学、エスニシティ論、ジェンダー論	エスニシティ、ジェンダー、アイデンティティ、レイシズム、インターセクショナリティ、異文化コミュニケーション、異文化理解
学位	最終学歴
文学修士, MA(Sociology and Social Policy), PhD. (Sociology and Social Policy)	PhD. (Sociology and Social Policy), Racism and Ethnicity Studies, The University of Leeds (UK)

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. レイシズムとエスニシティ研究入門I, II	2021年9月2021年3月	岡山大学 教養教育選択科目。社会学のレイシズム【人種主義】とエスニシティ【民族性】研究分野の基礎的な概念や理論を学び、レイシズムやエスニシティをめぐる人々が直面している現状・問題や、世界の不平等や多様性について理解を深めることを目的とする。履修者は毎回の講義とディスカッションを通じてテーマについて深く掘り下げ、学びを深める。履修者が取り組む授業活動や課題には、オンラインフォーラムにおいて自分の意見を発表及び議論し、レポートを書くといった活動が含まれた。
2. Intercultural Relations and Communication	2016年4月2022年3月	岡山大学 グローバル人材特別育成コース必修科目。(非)言語コミュニケーション、文化・社会集団、アイデンティティや対人関係、ジェンダーや民族性、コミュニティなど、異文化コミュニケーション分野で扱われるテーマの基礎的知識と理論を扱う。personal lifeからprofessionallifeまで、ビジネスの場面も含め、異文化コミュニケーションについての実践を学ぶ授業を行った。講義や議論は英語で行われ、学生は学んだテーマについて英語で小論文を書き、プレゼンテーション発表を行った。過去の調査テーマには、「世代間のジェンダー意識や経験の違い」「職場における異文化間のチームワーク形成」などがあつた。
3. 英語コミュニケーション2-1	2016年4月2021年3月	岡山大学 教養教育必修科目。授業内で行う精読(Intensive Reading)と、自宅学習で行う多読(Extensive Reading)をおもな学習方法として、多様な英文テキストを読むことにより、高い英語読解力を確立させることを目的とした。英語で書かれた文献や情報などを読みこなし、それぞれの専門分野の勉強や研究のために役立つ英語スキルを養成することを目指した。さらに、新聞記事や文学作品など、自分のニーズや目的に合わせて読み物を選択し、読解できるようになるための能力を育てることを目標とした。授業では、教員によって知識伝達を行う講義と、学生がペアワークを通して学び合う協同学習形態の両方を用いた。
4. 上級英語	2015年4月2017年3月	岡山大学 教養教育選択必修科目。英国の日刊紙であるThe GuardianとBBC Newsのウェブサイトを用いて、リアルタイムのニュースを通して社会問題を英語で学ぶとともに、読解とリスニング力養成、要約や意見を表現するためのライティング力、そしてペアワークでのディスカッション能力を養うことを目標とした。メディア英語の構造についても学び、英語を使い多くの情報を読み取り、取捨選択できるように訓練した。授業では、スピーキングとディスカッションで自宅学習の成果を発表し、毎回英語での活発な議論が学生の間で交わされた。
5. Pre-Seminar: Cultural Studies	2009年4月2010年3月	武蔵野大学文学部英語英米文学科 必修科目。3年生からの専門科目の研究、就職または院への進学や海外

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
6. Business Writing	2007年4月2010年3月	の大学院への留学に備えるため、リサーチ力、プレゼンテーション力をつけることを目標とした。カルチュラル・スタディーズの分野で扱われるトピック「レイシズム」「エスニシティ」「ジェンダー」などを鍵概念に、アメリカ、イギリス、日本の事例を用いて、異文化理解を深めることを目指した。
7. TOEIC基礎演習	2006年4月2010年3月	武蔵野大学文学部英語英米文学科 必修科目。国際企業で働くことを想定し、必要な英文ライティング能力を養うこと、および英語を使用したビジネスにおけるコミュニケーション能力を身に付けることを目標とした。前期は、ビジネス文書作成における基本的ルールや知識を身に付け、ビジネス文書（例：名刺、英文履歴書、e-mail、履歴書送付カバーレター、礼状、旅程表）を作成した。後期は、実際のビジネス場面や状況を想定し、e-mail、ビジネスレター、報告書など、様々な文書を作成した。また、これらのビジネス文書を作成することによって、ビジネスの知識を学び、交渉技術を身に付けることを目指した。
8. 英語I	2006年2010年	武蔵野大学文学部英語英米文学科 必修科目。学生はTOEICのスコアアップを目指した。授業では、教材を使ってTOEICの練習問題、小テスト、CDなどの教材を使用してのリスニング、英字新聞の記事の読解、などを行い総合的な英語力を身につけることを目標とした。TOEIC試験の内容に絡み、ビジネス英語に関連したe-mailやビジネスレターの書き方についても取り入れた。
2 作成した教科書、教材		
1. The intersection of arts, humanities, and science 大学生のための国際教養【第2版】	2024年3月	p.8の「プロセスライティングプロセスを踏んで書こう」を五十嵐潤美先生と共同で執筆
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. Temple University Japanの「Race and Diversity Program」にてゲスト講義	2025年4月1日	Temple University, JapanのMarvin S. Uehara准教授が担当する授業「Kids in Crisis: When Schools Don't Work」において、「在日コリアンの若者と学校（通学先選択）」をテーマとした講義を行った。受講生の大半はアメリカ人学生であり、講義は英語で実施された（オンライン形式）。
4 その他		
1. 令和6年度 武庫川女子大学英文学会講演会の企画・司会担当	2024年11月14日	2024年11月14日に開催された令和6年度武庫川女子大学英文学会講演会の企画と司会を担当した。シドニー工科大学の名誉客員教授であり、国際的に著名な学者である岩淵功一先生をお招きし、「越境・国際交流・多様性を学び直す<グローバル市民>への足がかりとして」という演題でご講演いただいた。
2. 2022年度 高大連携・入学前教育	2023年2月16日	武庫川女子大学附属高校の3年生を対象とした入学前教育の授業を行った。「異文化コミュニケーション入門」として、社会学の観点から「文化とは」をテーマに講義とディスカッションを行った。
3. 第38回武庫川学院英語オラトリカルコンテスト	2022年10月28日	大学英語スピーチコンテストの審査員
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. TOEIC 915点	2003年3月	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. フィールドワーク（地域研究）	2023年4月1日～現在	「在日コリアン女性の育児のためのネットワークに関する質的研究」についての研究のため、フィールドワーク（インタビュー他）を実施
2. フィールドワーク（地域研究）	2007年1月2010年3月	「在日コリアンの民族性とアイデンティティ」についての研究のため、フィールドワーク（質的研究法）を実施
3. アメリカインターンシップ留学	1999年9月2000年7月	International Internship Programより、インターンとしてアメリカ合衆国コネチカット州ノースウィンダム小学校に派遣される。日本文化・日本語を現地の小学生に教える。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. Ethnicity and Identities of Younger Generations of Zainichi Koreans (Resident Koreans in Japan)	単	2012年3月	英国リーズ大学大学院社会学・社会政策学部人種民族問題研究博士課程修了[社会学博士][UK, the University of Leeds, Sociology and Social Policy, Racism and Ethnicity Studies Ph.D.]	This thesis examines the diversity and complexity of young Zainichi Koreans' perceptions and experiences, and the processes and dynamics of their ethnicity and identities. It challenges the prevalent assumptions of the dichotomised Zainichi Korean population; they are perceived either as being strongly politicised with either ethnic affiliation for North Korea or South Korea or as being totally assimilated into mainstream Japanese society. They are also considered to be divided in accordance with nationality and through participation in different representative organisations. This thesis explores variables in Zainichi Koreans' identity formation and maintenance of ethnic distinctiveness.
2. The Transformation of the Ethnic Identities of Zainichi Koreans	単	2005年9月	英国リーズ大学大学院社会学・社会政策学部人種民族問題研究修士課程修了[社会学修士][UK, the University of Leeds, Sociology and Social Policy, Racism and Ethnicity Studies MA]	This dissertation investigates how a shift in the ethnic identity of Zainichi Koreans has gradually taken place from the polarised dichotomy between assimilation into the dominant by passing or separation from the majority Japanese, to a divergence of ethnic identities over the generations. The patterns of the ethnic identity of Zainichi Koreans cannot fit into the traditional dichotomies between Chongryun/Mindan, or between non-naturalised/naturalised anymore.
3. Racism and Ethnicity Diversity in Higher Education in Britain	単	2005年1月	武蔵野大学大学院人間社会・文化研究科言語文化専攻修士課程修了[文学修士]	In this dissertation, higher educational institutions with regard to the roles of universities, institutional racism, whiteness in higher education institutions, and myths of academic 'liberalism' are examined. The results of a survey on racism and ethnic diversity in higher education institutions conducted at the University of Leeds, in England, in December 2004 are presented.
3 学術論文				
1. 大学のキャリア支援職員から見た外国人留学生の就職活動の実態と課題について（査読付）	共	2025年4月5日	『JAILA Journal』第11号, 日本国際教養学会, pp3-16.	本研究は、日本での就職を目指す留学生が直面する課題とその背景を明らかにすることを目的とし、関東地方に所在する三大学のキャリア形成支援部門の職員へのインタビュー調査を通じて分析を行ったものである。留学生にとって日本語能力試験N1レベルの取得が就職活動における事実上の前提条件とされている現状が確認された。また、企業の採用選考において母語話者と同一の基準で評価されることによる困難さも指摘された。さらに、企業が期待するキャリア

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 在日コリアン女性の育児に関する研究「子どものための学校選択」をめぐる語りを通して（査読付）	単	2025年3月25日	『日本の科学者』2025年60巻4号 p. 182-190 日本科学者会議	像と留学生自身のキャリア観との間に認識のギャップが存在することが明らかとなった。質的分析の結果、主に三つの課題が浮かび上がった。第一に、N1取得の困難さに対する企業側の理解不足、第二に、言語的ハンディキャップを配慮しない画一的な選考基準、第三に、企業と留学生間に存在するキャリア観の相違である。これらの課題は、留学生の就職支援における制度的改善の必要性を示唆している。
3. Zainichi Kankokujin: Ethnic Appellations and Self-Designation（査読付）	単	2024年3月20日	『Mukogawa Literature Review』第61号, 武庫川女子大学英文学会, pp.17-30.	This paper has explored ethnic appellations and Zainichi Koreans' self-designation, mainly focusing on those who identified as Zainichi Kankokujin or Kankokujin. The expression Zainichi Kankokujin represents users' desire to disassociate themselves from North Korea and Chongryun. They constructed or rediscovered their Zainichi identity through interactions with native South Koreans, and discovering the ethnic boundary between themselves and native Koreans. Investigation of ethnic appellations used for self-definition also served the analytical purpose of specifying the formation and transformation of ethnic identities.
4. Ethnic Appellations and Choosing Identities of Zainichi Koreans（査読付）	単	2023年3月20日	『Mukogawa Literature Review』第60号, 武庫川女子大学英文学会, pp.13-25.	This paper explores the correlation of Zainichi Koreans' ethnic appellations with their choosing identities. In order to understand the complexities and natures of their multiple self-definitions and designations, it focuses on the behavioural similarity and dispositions of those who use the term Zainichi Chosenjin to describe himself/herself.
5. “Experiences in Education and Identities of Japanese-Schooled Zainichi Koreans”	単	2021年12月	『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』第6号, 岡山大学, pp.20-32.	This paper explores the experiences of Japanese-schooled Zainichi Koreans. It analyses the differences and commonalities in terms of their education, family structure, and ethnicity. It also examines how some Japanese-schooled Koreans (re)gained their ethnic identity through their activities in the Chongryun youth group. The author conducted semi-structured, in-depth interviews with thirty-seven Zainichi Koreans. This research shows differences in schools and education are the major source of divisions in the Zainichi population and the subsequent formations of their identities.
6. Experiences and Identities of Zainichi Korean Students at Chongryun-affiliated Schools”（査読付）	単	2020年3月	『JAILA Journal』第6号, 日本国際教育学会, pp.83-97.	The purpose of this paper is to explore the relationship between ethnic schools and the identity construction with the focus on a subset of Zainichi Koreans who affiliate with the pro-North Korea group Chongryun (the General Association of Korean Residents) and received education from Chongryun-affiliated schools.
7. “Zainichi Koreans’ Ethnic Identities and Roles of Ethnic Organisation and Community”	単	2019年12月	『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』第4号, 岡山大学, pp.11-30.	This paper discusses how Zainichi Koreans developed their identities both within and outside the realm of the ethnic community and ethnic organisations. This study uses qualitative multi-methods research based on interviews with members and non-members of Zainichi Korean organisations and field observations.
8. “Changing Ethnic Relations and Diversifying Lives of”	単	2017年12月	『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』第2号, 岡山大学, pp.1-14.	This paper discusses the diversifying lives of Zainichi Koreans along with the improved legal and social status of Zainichi Koreans and subsequently their living conditions. A large number of Zainichi Koreans have been leaving ethnic institutions and in some cases, the Zainichi community. The

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ZainichiKoreans”				differencein the images of the two Koreas is asignificant factor in their ethnicidentities. This paper also examines howZainichi K o rean civil rights movementsafter the 1970s have encouraged manyZainichi Koreans to assert andmaintain theirethnic pride.
9. “The Post-war Socialand Legal Contexts ofZainichi Koreans”	単	2016年12月	『岡山大学教育研究紀要』第12号, 岡山大学, pp.43-62.	This paper discusses the complexity and thetransition of the legal and social status ofZainichi Koreans after the Second World War.It outlines how the legal status of ZainichiKoreans without Japanese nationalityremained precarious for four decades afterthe war.This paper also looks at two mainethnic organisations: pro-North KoreaChongryun and pro-South Korea Mindan. Itexamines how some Zainichi Koreans weresplit according to the organisations inwhich they participated, which led to thedivision of Korean communities in Japan.
10. “Identities and Use ofNames of Young ZainichiKoreans” (査読付)	単	2016年2月	『Bridging Differences: Understanding CulturalInteract ion in OurGlobalized World』, Inter-DisciplinaryPres s. ISBN 978-1-84888-368-0 pp. 111-119.	The purpose of this paper is to examine thediversities and multidimensional qualitiesof Zainichi Korean youth’ s identities inrelation to their use of names based ontheir detailed accounts.This paperchallenges the prevalent assumptions of thedichotomised Zainichi Korean population; asbeing strongly politicised with eithernational affiliation to North Korea or SouthKorea or as being totally assimilated intomainstream Japanese society.
11. “Korean Migration andJapanese Colonialism”	単	2015年12月	『岡山大学教育研究紀要』第11号, 岡山大学, pp. 113-126.	This paper outlines the historicalbackground to Korean migration and Japanesecolonialism in order to understand the birthand formation of the Korean population inJapan (Zainichi Koreans). Through thisexploration, this paper shows how Japanattempted to assimilate the Koreans into thebottom of Japanese society and to destroytheir ethnic identity as Koreans. It alsoexamines how the racial discourse of theJapanese ‘superior race’ had beendeveloped and played an integral part injustifying its socio-economic andsubjugation of East Asian people includingKoreans during the colonial period.
12. 英国における文明交流の光と陰—英国の文化的レイシズムとアイデンティティの亀裂」（査読付）	単	2009年3月	『比較文明』第24号, 比較文明学会, pp.316-334.	2005年のロンドン爆弾テロ事件をテーマに、その背景をさぐり、文明の発信地側の英国社会における文明交流によって不可避免的に引き起こされる諸問題について考察した。まず、イギリスに住むパキスタン系移民の移住過程と、英国政府の対応と人種関係法と移民法の制定、現在のムスリムに関する人種差別の実態を検討している。そして、彼らの存在をめぐる英国社会の人種差別主義、その形成過程と政治的背景、さらにイギリスの報道をもとに、パキスタン（ムスリム）系マイノリティグループの若者のアイデンティティと近代文明国家英国が抱える問題について考察している。
13. “Racialised andGendered Inequalities inJapan’ s ImmigrationPolicie s”	単	2009年2月	『國學院大學紀要』第47巻, 國學院大學, pp.35-54.	This paper shows how the Japanesegovernment’ s current immigration controlpolicies and Japan’ s international labourmigration projects reflect gendered andracialised inequalities.
14. “How Has IndigenousRights Movement of AinuPeople Developed in Japanand in the World?”	単	2007年3月	『武蔵野大学大学院人間社会・文化研究紀要』第1号, 武蔵野大学, pp.13-26.	This paper examines how the Ainu, since theywere completely colonised by force anddeprived of their culture, rituals, political rights, lands, and language byJapan in nineteenth century, constructed anddeveloped the Ainu indigenous human rightsmovement and established transnationalnetworks.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
15. “The Myth of Academic Liberalism and Whiteness: Racism in Higher Education in Britain”	単	2006年3月	『武蔵野大学大学院紀要』第6号, 武蔵野大学, pp.111-116.	In this paper, patterns of racial and ethnic inequality in higher education are examined, and ways to account for them are considered.
16. 「異文化理解から和解へー『えひめ丸事故』をめぐる」	単	2004年11月	『武蔵野大学大学院紀要』第4号, 武蔵野大学, pp.55-62.	2001年2月に起きた愛媛県宇和島水産高校実習船「えひめ丸」事故において、当時、米国に在住していた日本人として、この事故で明らかになった日米の文化的価値観の差違を、メディア報道を資料に解明した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 在日コリアン女性の子育てにおける社会関係とケアの生成	単	2025年3月15日	JAILA (国際教養学会) 第13回全国大会	本研究は、「在日コリアン女性の子育てにおける社会関係とケアの生成」に焦点を当て、在日コリアン女性の子育ての過程において社会関係を築き、子育て支援のためのつながりを形成しているのかを明らかにしたものである。あわせて、民族とジェンダーの交差性 (インターセクショナリティ) が子育て経験にどのような影響を及ぼしているのかについても考察を行った。
2. 在日コリアン女性の子育てに関する研究～「子供のための学校選択」をめぐる語りを通して	単	2024年12月7日	日本科学者会議『第25回総合学術研究集会』分科会「フェミニスト・エスニック・スタディーズとDEI (Diversity, Equity, and Inclusion) : 平和に必須の多様性と公平性と包摂」	本研究は、在日コリアン女性の子育てに焦点を当てたものである。子どもの学校選択に関する語りを通じて、日本社会に存在するジェンダーおよびエスニシティに根ざした複合的な差別構造の中で、在日女性がいかんして育児や生活を営んでいるのかを明らかにした。
3. 大学の就職支援サポートから見た外国人留学生の就職活動の実態と課題について	共	2024年3月16日	第12回 JAILA全国大会	ウィックストラム 由有夏 武庫川女子大学 准教授 江田 早苗 ミドルベリー大学日本校 所長 本発表は、就職サポートを提供する大学職員へのインタビューを通し、日本での就職を目指す外国人留学生の就職活動の実態と課題について分析することを目的としている。この分析調査により、①留学生に求められる日本語能力、②日本語を母語とする新卒採用の就職活動者と同条件での採用選考、③企業側と新卒採用留学生との間のキャリア形成イメージの相違、の3点が共通課題として浮かび上がった。
4. “Ethnicity and Identities of Younger Generations of Zainichi Koreans: Ethnicity and Use of Name”	単	2015年3月	Interculturalism, Meaning, and Identity (Inter-Disciplinary Net. 主催)	ポルトガルのリスボンにて開催された国際学会 Interculturalism, Meaning, and Identity (英国 Inter-Disciplinary Net. 主催) で口頭発表
5. 『異文化誤解から和解へー「えひめ丸事故」をめぐる (Cultural Awareness and Reconciliation on Ehime Maru Accident)』	単	2003年11月	比較文明学会大会にて研究発表 (開催場所: 武蔵野大学)	比較文明学会大会第21回にて研究発表 (開催場所: 武蔵野大学)
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 在日コリアン女性の育児を中心としたネットワークに関する質的研究	単	2023年4月から	日本学術振興会	2023年度～2026年度 科学研究費補助金 基盤研究C 課題番号：(研究代表者 ウィックストラム由有夏) 本研究は、ライフストーリー・インタビューを通し、育児過程において母親である在日コリアン女性がどのような人間関係を保有し、その中でどのような子育てにおける相互ケアが存在するかという事と、それによって女性たちがどのようにアイデンティティを(再)構築しているのかという事の関係性を深く考察し、日本におけるマイノリティ女性の現状をインターセクショナリティ(交差性・複合差別)(Crenshaw 1989; Collins 2016)の視点から明らかにする。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2022年6月～現在	日本移民学会
2. 2020年3月～現在	日本都市社会学会
3. 2018年2月～現在	日本国際教養学会
4. 2003年7月2012年3月	比較文明学会